

2024, Mar

歴知る  
journey  
journal

TAKE FREE

編集/企画 歴知るjourney



特集  
歴旬 - 紫式部

# くらしの中に「歴史」があると？

実は私、全く歴史に興味なく生きていた。「過去より未来」と研究に明け暮れるリケジョ時代、転機は親友の言葉で劇的に始まる。

「ここで額田王が手振らはって……」「大海皇子が背の矢傷を治したし八瀬やねん」「龍馬さんがな……」

歴史上の人物を「親戚かっ？」って調子で語り、ゆかりの場所を愛おしむ彼女の日常。

なんだか羨ましくて、「何も無い」と思っていた福井の歴史をふと見つめた。そうしたら……。あるわ、あるわ！

京の都のお隣で、豊富な農・工産物、鉱物、交易港を持つ、越前と若狭。まさに時代の転換期に福井あり！

ドラマティックな物語が、あっちにもこっちにも溢れている。

今ではすっかりレキジョな私。「過去を知れば未来がひろがる」と妄想と感動と涙にくれている。いつもの場所は物語の舞台に、先人は人生の師に。

さあ、歴史を知る旅をしよう。

## 知って、トキメキ旅して、伝える福井の歴史



福井の歴史を知る旅に出よう。遠くじゃなくていい。まずは自分の足もとに、どんな歴史があるのかな？ってちょっとのぞいてみる。ひよっとするとそこには、驚きと発見があるかもしれない。

そんなトキメキを募らせて「ねえ！ちょっと聞いて」って誰かに伝えたいくなる。福井の歴史を楽しむ輪が、ゆるやかに楽しく広がる瞬間ってそんな時じゃないだろうか。

歴知る Journey Journal は、福井をめぐって発見した歴史のトキメキを、お届けします。

### もくじ

- 03 特集 歴句-紫式部
- 07 私の歴史沼 お寺
- 09 歴史にキュン 地形
- 11 昔の暮らし 紙
- 12 景色の中の歴史 越前の国府
- 13 歴知ろうとコラム 雛祭り
- 14 information

表紙作品：業畑未来  
[てのひらみずうみ]キルンワーク

てのひらにのる小さなみずうみから、みる人それぞれが時間や思い出を重ねてもらえると嬉しいです。

# 紫式部の人生

970年? 973年? 976年? 978年? 諸説あり

## ＊生誕

生誕の地は紫野（現：大徳寺真珠庵に産湯と伝わる井戸が現存）  
邸宅は堤中納言邸（現：蘆山寺一条大通南・鴨川西岸）

## ＊父・為時職に就く

984年 11歳

子は母方で育つのが一般的な平安時代に、母がいない紫式部は苦学生の父方で育つ。  
花山天皇即位で父は式部丞に！だが、お姫様ライフは天皇退位と共に2年で終了。

## ＊父・為時大国越前の国司となる

996年 24歳

10年間散位（職なし）の父、ボンビー暮らしな紫式部。大好きな学問を究めるが、  
才女が嫌われ、女系ゆえ実家の財力が縁談を左右する時代。モテ期は父の国司就任  
でやっと訪れる。藤原宣孝から求婚！なのに越前国に下向するってどうゆうこと!?

## ＊結婚・出産・夫の死去そして執筆

998～1001年 26歳

気持ちを確かめるように宣孝とメール遠恋。次第に近くなる心。ついに帰京し、宣  
孝との間に娘・賢子を授かるが、幸せもつかの間夫・宣孝が亡くなる。  
失意の中、書き始めたのは……『源氏物語』

## ＊キャリアへの道！宮中に初出仕

1005年(1006年説も) 33歳

次第に評判となる物語。作者の紫式部に時の権力者・藤原道長が目をつけた。娘の  
彰子を一条天皇に嫁がせるも皇子が授からない。兄の血脈に権力を奪われかねない  
危機に、紫式部をリクルート。  
ミッションは教養溢れる彰子後宮にして一条天皇の皇子をゲット！

## ＊『紫式部日記』執筆

1008～1010年 36歳

遂に念願がかない彰子が立て続けに一条天皇の皇子二人を出産！  
道長はその煌びやかな様子を日記に書かせ、一強体制を築く

## ＊『紫式部集』を遺し逝く

1014?～1039?年 諸説あり

一条天皇の崩御後も公家との取次役を務め、彰子を支えた紫式部。  
娘・賢子も宮仕えし東宮皇子の乳母になる。没年は定かではない。

(年齢は973年生誕説による。数え歳で表記)



「どうやら歴史には旬がある！」

そう気付いている人は案外多い。

大河ドラマや人の心に響く記念の年、

巷にはその情報やグッズがあふれ、感

動を巻き起こす。

日本全国を見渡すと、歴史の旬「歴旬」

をつかんで盛り上がる地域と、何もし

ない残念な地域の差が顕著すぎて、胸

が痛い。

福井は、どうか？

踏み外さないよう、今年の歴旬ネタを

考えてみたい。

先ずは大河ドラマ。

主人公は『源氏物語』で有名な女流作家・

紫式部。一年余りも越前国に住んでいた！

周年で言えば、越前福井藩祖・結城秀

康公が1574年生まれで生誕450

年。昨年大河でイケメン俳優が演じ、

秀康人気は沸騰中だ！

中国近代文学で知られる魯迅の恩師・

藤野巖九郎先生も1874年生まれ

で生誕150年。魯迅が唯一、日本

人を描いた短編小説『藤野先生』

は1926年出版、2年後が

発刊百周年！

他にもいっぱいあるけれど、

今回は紫式部と福井のゆかりを

深掘りしよう！



# 千年を超える謎解きは、 誰でも参加自由！

紫式部はこの越前で、  
どんな景色を見て、  
何を想ったのでしょうか？  
本人が厳選して残した歌集  
『紫式部集』に答えがあります。

紫式部が越前に来る前年、70名余りの宋（今の中国）人が来日し敦賀に留められていました。天皇に教えるほどの漢学者の父・為時は、漢詩で意思疎通を図るべく、越前へ！

出発は初夏かも？ 伯父さんが饞別の夏衣を送った歌がありますもの。都からのルート之歌でたどると

- ・三尾の海に 綱引く民のてまもなく  
立ち居につけて都恋しも
- ・かきくもり夕立つ波の荒ければ  
浮きたる舟ぞ静心なき
- ・知りぬらむ往来にならず塩津山  
世にふる道はからきものぞと

三尾は現在の高島市、夕立は夏の風物。移動はやっぱり初夏？ 塩津山は愛発も含む山々。琵琶湖西岸を船で北上↓塩津浜から山越え↓敦賀という道中が見えてきます。

敦賀・越前国府間のルートはどうでしょう。  
出発のころ、紫式部が「北に行くけど文が絶えませんよう」って歌を贈った友達の返歌は

行きめぐりたれも都にかえる山  
いつはたと聞くほどのはるけさ

紫式部が国府で暮らす冬、雪山を作り登りながら「きて見て♡」という侍女たちに

ふるさとかえるやまぢのそれならば

こころやゆくとゆきもみてまし

都にかえる時に詠んだ歌の詞書も「かえる山越えけるに呼坂というなる所の」歌には「たごのよびさか」としたためています。

鹿蒜山経由は確実！ 陸路の木の芽峠越えか？ 海路もありの五幡・たこ坂・山中峠越えか？ 推理しがいがありそうです。

国府で見ていた景色、超有名なのが、

ここにかく日野の杉むらうずむ雪

小塩の松に今日山がえる

〈返し〉小塩山松の上葉に今日やさは

峰のうす雪花と見ゆらん

初雪の日に「ここに書こう」って！ 積もる雪の美しさは今も同じだから感動します。

都の藤原家氏神を祀る大原野神社の小塩山をなぜ越前で詠む？と学者先生は言いますが、地元民なら当たり前！大塩山や大塩神社がありますから。

「おしお」と「おしお」、重ねて詠んだねって推理がめぐります。

白山の詩もありますよ。宣孝からの「春だし、心の氷も溶けていい感じ？」的な文に

春なれど白嶺の深雪いや積もり  
解くべきほどのいつとなきかな

「会いにも来ないくせに、白山の雪は溶けないの！」って、乙女な返歌。

遠恋メールの末、宣孝のプロポーズを胸に、雪の前に越前を発つ紫式部。帰り道で、  
名に高き  
越の白山ゆきなれて  
伊吹の嶽をなにとこそ見ね

「白山を見慣れたから、伊吹山を見てもどおってことないわ」的な歌、  
ドヤ顔が見えるよう……。

一年半余りの越前暮らし、  
人生にめっちゃ影響してそうですね、紫式部さん。



# 寺 ぎゅん

お寺好きでも歴史好きでもない。仏教に明るいわけでもない。相変わらず仏像にも詳しくもないけれど、敦賀の西福寺に勤めだして9年目。えっそんなに居るのに、、、と思わなくともいいのが、西福寺の懐の深くて広い、なぜか虜になる所以。

いつだったか、低音ボイスのラジオパーソナリティから聞かれた。

「西福寺を一言で表すと?」

「アミューズメントパークです」

「え?それってどういうことですか?」

「よしよし、ニヤリ」

「そう思いますよね。いらしたらきくとわかります...」

多分、20回以上もその様子を見させてもらっているけれど、毎回いい。誤解を恐れずに言えば、密かに一人身悶えしている。

正装のお坊様がお念佛する。それだけで、なんなら姿は見えずとも独特の低音が聞こえてくるだけで、ぞわぞわして、きゅうんとなってしまうことに、西福寺に勤めだしてから気がついた。

そういえば、幼いころからお寺に連れていかれるのが嬉しかった。お坊様が我が家にみえる日には興奮していた。お坊様の年齢と顔つきは無関係。お袈裟を纏いお念佛を称える姿になった途端にきゅん、、、となって、読経が始まるときゅうんっとなる。

実はどの人でもそう感じると思っていた。そんな生体反応はないと言われて初めて寺きゅんに気づいたのだった。

もちろんどこの寺院もいい。(イチ押し)西福寺なら濡れそぼる雨の日もいい。池にいくつも広がる波紋を眺めながら、一服いかが。

とにかくどうにかして行ってみたいと思わせたのが前面に出る。来た方がいい、来たらかわると言うのを止められないのだ。

行事がない普段でも、大きな行事の時でもいい。普段なら西福寺の空気を感じるだけでいい。余裕があれば抹茶を一服、どうぞ。お浄土を感じる庭園を眺めながら聞こえてくるのは小さな滝の音と風と山の音だけ。

大きな行事もいい。池の上の特別な回廊を、沢山のお坊様が揃いのお袈裟を纏って恭しくお念佛しながら進む。

原稿/中村燕子(なかむらたかこ)

福井県嶺北生まれ、嶺南在住、西福寺勤務9年目の、歴史のトキメキは何もなかった一般人。寺勤務で僧侶萌え体質に気づき、誘われるまま氣比神宮で雅楽を始めた、一人おしかけ抹茶の会会長。



9月頭、敦賀と若狭に赴き、歴知る Journeyの本  
格始動に向けた下準備をすることが決まった。

敦賀の街を車で走りながら、歴知るメンバーがい  
ろいろ教えてくれる。

「これは昔の路線。敦賀港からウラジオストクに繋  
がってたの」

「紫式部は敦賀にも来てたと思うな。だってね…」  
「氣比神宮の神様は、あの天筒山に降臨したんだよ」

ただただ敦賀の街並みとして見えていたものが、  
歴史語りでどんどん変わって見えてくる。知るとい  
うことの醍醐味だ。

敦賀を過ぎ、若狭へ入った。

歴知るメンバーは若狭の風景を見ながら、こんな  
ことを教えてくれた。

「福井って嶺北と嶺南で、川のあり方がちがう。嶺  
北は、大きい長い川が、最後に三国の海に合流する。  
嶺南は、山と海の距離が近いから、それぞれの川が  
そのまま海に流れる」

そんな感じの内容だった。  
めちゃくちゃはっとした。

嶺北を流れる、九頭竜川、日野川、足羽川。それ  
らは三国でひとつになり、海と合流する。

一方、嶺南では、笹の川、井の口川、耳川、南川、  
飯盛川…などいくつもの短い川が、山から海に向  
かって流れる。

「嶺南と嶺北で、こんなにもはっきりした川のあり  
方のちがいがあるとは！！！」

これを聞いてから、私用で三国に行くことがあつ  
た。海を見た。

3本の大きな川が山から流れ流れて、ここへ来て  
いる。私が住む池田町に流れる足羽川も、きつとこ  
こを流れている。

そう思うと、言葉にならないほど胸に溢れてくる  
ものがあった。

以前には思わなかったことを、三国の海に想った。

川のあり方がちがうということは、川にまつわる  
生活文化も異なったのではないか。

例えば、昔の（いつだったかな…）池田町では、  
とても大きなかだに、伐採した木を積んで福井市  
の方まで足羽川を流れて売りに行ったという。物流  
としての足羽川である。嶺南の川では、こうした長  
距離の物流利用はなかっただろう。地形から、歴史  
や暮らしが読み解ける…！

ここ数ヶ月を振り返って1番の歴キェンだった。



ライター／川上 真理子

2022年春大学院卒業後、福井県池田町へ惚  
れ込んで暮らし始める。池田町にしか興味  
がなかったものの、暮らしていくうちに福  
井の魅力が見えてきて鼻息を荒くしている。  
最近、鹿捌きと大根の漬物で忙しい。

# 昔からのサステイナブル



原稿 うおみえみ

小浜市在住、フリーランスのデザイナー。  
縄文・弥生時代が好きで奈良県橿原市に住まい  
遺跡を巡ったりして遊んでいました。独自の見解  
で妄想を駆使してストーリーを自由に組み立ながら  
歴史を紐解いていくのが好きです。

SDGs が提唱されてから、何かと目に  
する「サステイナブル」ですが、昔々の  
日本がすでに「サステイナブル」だった  
んですね。

私はその存在としてわかりやすいのが  
「紙」じゃないかと思うんです。

自然の素材から作られ、燃やすとエネ  
ルギーになり、そのまま捨てても自然に  
分解され、もう一度生成して新たな紙に  
また生まれ変わります。

これぞサステイナブル！

紙はとても便利で優秀なのです！

平安時代にはすでに「紙はリサイクル」  
の概念があったそうで、朝廷の公文書と  
して使用を推奨されており、天皇といえ  
ども略式の間は新品の紙が使えなかつ  
たそうです。

そして紙は「カミ」と読みますが、日

本語で「カミ」は神、上、噛み、髪とい  
うふうに、なんとなく神格をもっている  
ようなものを指している気がします。そ  
れだけ、紙は神聖でかけがえのないもの  
だったのではないかと想像します。

なのに現代では紙を使い捨てにしてい  
るんですよ！ 平安時代の人が聞いたら、  
すごくびっくりするでしょうね。

また、紙を安易に使い捨てにすること  
は、貴重な森林資源を浪費することにつ  
ながります。

昔の人が持っていた紙とのつながりを  
もう一度見直すと、本当の意味での「サ  
ステイナブル」が見えてくるのではない  
かなと思います。



日野山（愛宕山山頂から撮影）

## 紫式部が見た風景

紫式部は、長徳二（996）年に父藤原為時が、  
越前国守に任命されたことから、父とともに越前国  
を訪れ、一年余りを過ごしました。  
越前でのくらしが、式部の感性を磨き、人として  
の幅を広げ、後の『源氏物語』の執筆に影響を与え  
たといわれています。

ここにかく 日野の杉むら 埋すむ雪  
小塩の松に 今日やまがえる

（訳：この地で、日野山の杉木立を埋めるように降り  
積もる雪。都の小塩の山にも、雪が降り乱れている  
のでしょうか）

紫式部の目に映った日野山の雪景色は、歌に詠む  
ほど印象深いものであったに違いありません。この  
美しい日野山を愛でる名所に「紫式部公園」（東千  
福町）があります。日本で唯一の寝殿造庭園で、日  
野山が一番美しく見ることのできる場所に造られて  
います。

加えて黄金に輝き日野山を眺める紫式部像も見所  
のひとつです。公園に隣接し「紫ゆかりの館」があり、  
紫式部や源氏物語を学ぶことができます。

越前市で紫式部が目にした美しい日野山の姿や平  
安文化を感じてみませんか。

紫式部公園（日野山を眺める紫式部像）



原稿 越前市文化県都推進室長  
奥谷博之（おくだにひろゆき）

越前市総合政策部ブランド戦略課文化県都推進室長  
越前市役所入庁以来、埋蔵文化財発掘調査を中心と  
した文化財保護全般に携わっている。

# 読者の皆様へ

「歴知るjourney」は皆様からのご感想やご意見、リクエストなどで成長していきたいと思っております。

- ご感想やご意見
- 記事リクエスト
- 当誌設置のご依頼など

ご要望のある方はこちらまでご連絡ください

[rekishiru.info@gmail.com](mailto:rekishiru.info@gmail.com)

お名前、お住まい、ご連絡先、メールアドレスをご記載下さい。  
ご連絡お待ちしております。

編集  
後記

## ★ 後藤ひろみ

昨年秋、「歴史活用コーディネーター」なるものを福井県から委嘱された。「そ、それは、何ですのん?!」とツッコむと「答えはあなたの中にある」的なお返事が……。途方にくれつつ思い浮かんだ友に「歴史、やらんか?」「何い〜?!」。って訳でここ最近、歴史語りが止まらない。この輪を広げるべく冊子発刊!結果は如何に〜?

## ★ 川上真理子

「まずやってる自分たちが楽しいのが大事!」歴知るjourneyのメンバーで、よく確認し合うことだ。本人たちが楽しくなかったら、伝わるはずがない。そんなバイブスをふんぶん鳴らしながら走り続けて、今回の冊子発行に至る。これを読んでくれた人にも、小さな楽しい波紋が広がりますように。読んでくれてありがとう!

## ★ 高橋真理子

いきなり「おひなさまの話を書いて」って言われても……。お人形のことは大好きだけど文章なんて書いたことない。でも、みんなに知ってほしい・伝えたいと思ったら、おひなさまってただ飾るだけじゃなくてすごい祈りが込められてるとか、実は日本の伝統的な考えから始まる、おもしろいもの塊って改めて思い出しました。もっと伝えていかなきゃ!今はそんな感じです。

## ★ うおみえみ

歴史といえば、古代!っていうくらい縄文~弥生時代が好きです。それくらい古代の世界史にも興味があります。歴史の妄想をするのがすごく楽しくて、昔から古墳を作って儀式をすることに憧れていましたwそんな現役腐女子の私に「歴史のフリーペーパー作って!」と依頼してもらえたこと、めちゃくちゃ感謝!おもしろいもんつくるぞー!

## ★ 中村恭子

県から任命されたの〜一緒にどう?え!面白そう♡からの歴キュン冊子づくり♪(うんうん、文とか雑誌に得意な人がいるとサクサク進んでいいわあ、自分は読ませてもらう人♡)え、違う?…まずい、寺に詳しくないのよワタシ(青ざめ脇汗)『西福寺キュンでいいの!』の言葉にホッとして恥ずかしながら僧侶キュンを報知。

企画・編集 / 歴知るjourney

〒910-0016 福井市大宮2-19-15 福井県立歴史博物館 内  
0776-22-0014

デザイン: タネまきデザイン (うおみ)、DoDo (清水)

# 雛祭り

ひなまつ  
紫式部の時代に大活躍したのが安倍晴明。  
陰陽道は福井の名田庄に残ってるって知ってる?  
身のケガレを祓う陰陽道の儀式は、今のお雛祭りに繋がってるの。  
おひなさま女子にお話を伺いました!

## Q & A

3月3日は、「雛祭り」です。さて、問題! 雛祭りの起源って? 雛人形ってなぜ飾るの? 飾り方に意味ってあるの?

雛祭りは、平安時代にはすでに始まっています。「雛祭り」と「歴史」って関係ありそうだけど、何かよく分からないって思う人多いと思います。

知ってください! 雛祭りに飾る雛人形って、歴史とともに一緒に変化してきたといっても過言じゃないんです。そして、今も変化に合わせてこれからも変わっていくでしょう。

近年、忙しい人が増え、手間のかかる雛人形を飾ることが敬遠されています。日本にしかない人形文化を忘れられない様に・知ってもらう機会になればと思います、越前おおのという地で、色々な人に、雛人形の良さを知ってもらいたいと毎年1月末から3月初旬にかけて「春を彩るひな祭り」を開催しています。イベントを通じ、雛人形の発信と歴史について考える場所になってくれたら嬉しいです。ぜひ、来年遊びに来てくださいます。たくさん雛人形とお待ちしております。



原稿 / 高橋真理子

小さい頃から人形に囲まれ育った私。大人になるにつれ、この環境にいることの幸せ、学ぶ楽しさ、伝えたいという思いが増える中で生活し、ひな祭りイベント開催しながら日々勉強中。